



c = 生検部位以外に病変の存在が疑われる場合、生検陰性であったが再生検が必要な場合
(一度精検受診にカウントされているので、要精検とはしない)

d = 生検または再検査が必要な場合
(再検査時の生検の必要の有無は精検医が判断する)

国立がん研究センター作成 (厚生労働省健康局 がん・疾病対策課編集)

内視鏡検査結果区分と事業報告の対照表

●平成30年度地域保健・健康増進報告 (平成29年度検診受診者の精検結果報告)

- (要精検の内訳を把握し、検診現場で要精検の診断が適切に行われているかを評価する)
- ① 検診時に精密検査 (生検) を行ったのか (b)
 - ② 検診時に精密検査 (生検) を行わず、ダブルチェックで要精検 (再検査) となったのか (d)
 - ③ ①のうちダブルチェックで要再検査となったのか (c)

平成30年度事業報告から新設

要精密検査者数	要精検者			精密検査受診の有無別人数							
	検診時生検受診者数	検診時生検受診のうち要再検査者数	検診時生検未受診のうち要再検査者数	精密検査受診者						検診時生検未受診のうち再検査未受診	検診時精検未受診のうち再検査未把握
				異常を認める							
				異常認めず	胃がんであった者 (転移性を含まない)	胃がんのうち早期がん	早期がんのうち粘膜内がん	胃がんの疑いのある者又は未確定	胃がん以外の疾患であった者 (転移性の胃がんを含む)		

～後頁資料、フローチャートとの対応～

b+d	b	c	d	b+e-h-i-j	h			i	j	f	g
-----	---	---	---	-----------	---	--	--	---	---	---	---